

本願寺派 龍谷頭真会会報

創刊号 (昭和57年5月26日)
京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派(情報部)
龍谷頭真会事務局

創刊にあたって

代表世話人 三輪善海

龍谷頭真会が発足して来年で十年になります。昨年の世話人会で、これを機会に会報を発刊することを決めましたが、そう派手なものではなく、同じ立場にある会員が意見を交換しあう紙面を作ったかどうかということがありますので、今後とも会員一人ひとりが紙面作りに参加していただきたいと願うものがあります。

今回寄せられた意見にもありますが、僧侶(住職)という立場で議会活動を行う苦悩は、はかり知れないものがあり、またそういう立場故に議会活動における有意義な役割も大き

なものがあるわけでありませう。

従来、そういう人たちが言うのであれば個々に活動していたけれども、十年前に宗派が扇の要の役割をしていたら、一堂に会する場ができたことは大変有難いことであります。

その後、毎年の総会はもちろん普段においても行政視察での相互交流の場を持ちあつたり、資料の交換など会員間の協力の輪は広まり、同じ宗門人としての喜びのもとに議会活動ができますことは、私達にとって大きな励みになっているのであります。

十年というひとときを迎え、会員一人ひとりがこの場をさらに有意義なものとして、本会がますます発展するよう会報の創刊にあたり念ずるものであります。

(相生市議・宗会議員)



会員の声特集

(順不同)

住職が小さな町の議会議員

(富山県大島町議)

花 木 肇 正

当町は、面積7・85km²、人口約七千五百人。合併しない町である。

地方統一選挙(昭和54年4月)には16議席中18人立候補。地元議席可能な所へ前自治会長と共に立候補。相手が次点、当方16番目、門信徒から批判が多かった。寺としての立場、住職としての目的が間違っていないのかと。念佛の御教えを伝道することが一番大切なことは承知している。

ら政治的な活動もして居た。出来ればそれを行政に生かすことによって、地域住民や幹部と云われる人と一体になって生きる道であると信念をもやした。産業建設と議運委員の時は議会と農・商工や環境開発の勉強により住民一体感をおぼえた。

現在は教育、福祉面で子供や高令者の問題で、町、県、国が何を考えているのか、寺はどう対応してゆけば良いのか痛感している。核反対には意見書を提出するのに、本願寺の考え方も述べた。

門徒の速夜回り、たまには寺院の老人会へ布教など多忙である。住職が議員の中に居ると云うより、議員の中に住職が居ると云う

将来は救われるだろうか……

資源に乏しい日本を今後どうして…教育こそ我が国の資源であると思ひ、議会活動の中で(色々あるが)先づ幼児から始まる人間教育の見直しを…と…文教に微力をそそいでいる学校教育の充実・社会教育の振興・PTA活動の徹底等…特に家庭教育に根をおろしその中でも親と子の対話を深め、拝む心を生活習慣化させるべく強く呼びかけて居ります。

み仏にそして親に祖先に心から感謝のできる子どもへ育てよう!!

門信徒におかれ町政活動

(北海道南富良野町長)

楯 大 亮

何せ過疎町村の標本のような町人口一万人以上、面積六六六km²と云う広い町の真中に国の開発計画

小さな町の議員存在が当方である。

立場にある者が地域工場の手助けを時にはしなければならぬ事が生まれてくる訳で、聞法・伝道者としての僧侶の立場をけがす事にもなるうかと、現在来年行われる改選に出馬するものかどうか日本海に持船の小船を浮べながら迷っております。

親と子の対話を深め拝む心を

(宮崎県椎葉村議)

尾 前 新 了

昨今の多様化する社会、戦後の急速な経済成長、これらに伴ない毎日のマスコミの中で報ぜられるのは悲痛なでき事ばかり社会意識も薄く、政治には無関心、自分の事となると利己的、これで日本の

教育委員会で社会教育担当六年、教区で教化専従者九年。若い時が

僧侶と議員の狭間で苦悩

(兵庫県香住町議)

藤 沢 大 紀

色々な条件が重なり町議会議員に立候補する事となり当選以来十二年目(三期最終年)をむかえております。

当時三十歳でしたが今は四十一歳。早いものです。世俗にうたった私も自然と僧侶だけでは知る事の出来なかつたであろう人の心や世のしくみなど色々な勉強をさせていただきました。しかし、議員としての立場になれてくると云う事はそれだけ住民の利害に深くかかると云う事で、公平な立場で物事を判断しなければならぬ

によって金山ダムなる九・二kmの

人造湖が昭和四十二年につくられ寺の米びつであった一番地味な豊かなところの二六九戸が水没。今では人口五千人を割る町になり寺だけは八カ寺、寺院経営大変なんというものではない。が、良くしたものの、一番門徒数の少ないわが寺なるが故、少ない門徒でお寺の生活をみるのは大変と一生懸命に選挙をやってくれて御陰で四十七年より町政に参画。結婚式も各種事業もしまいに議会迄、何だ御説教かと云われる様な話。その上五十二年特養を設置。一味園と名づけ仏様を本山より御受けし立派な仏壇を、五十三年大乘会なる法人を設立精薄施設を設置。何となく一安心してるところ。その内皆さんのところを見せて頂き、まねさせて頂くことたくさんあるところ。どうぞよろしく、私のところへもどうぞ。

二足の草鞋

(元・島根県佐田町議長)

巖 真 英

私は町議会議員を三期つとめ最後の四年は議長をして一昨年退職した。しかし最後まで二足の草鞋という感じからどうしても抜け切れなかった。云い換えると議員に徹し切れなかったということである。小さくても町政に参画してみると世俗の道のきびしさは驚くばかり。何と云っても温室育ちの僧職者にとっては堪え難い面を感じ

ずにおれない。訳がわからぬのでなく、なまじ今はこうすべきだといふことの察しがつくだけに尚一層やるせないものを感じ乍ら過した十二年であった。

しかし私は断言してもよい。僧職が政治の世界に志すことは決してわるいことでもないし、また間違つてもいないということ。

議員生活の中で学んだ種々の教訓を心に体してこれからの残った人生を仏の道に徹して行かねばならない。とかく絶えがちなコミュニケーションの大切なことを身に泌みて感じつつ何とか一隅を照らす存在になりたい。

町政に宗教心を

(大分県久住町議)

志 賀 諦 了

「み仏の恵みを喜び互に、うやまい助けあい社会のために尽す」の生活信条にこぼり私の町政への一歩の始りであった。現代社会にあつて「信仰」が、忘れ去られようとしている。

政党は、政治目的遂行のための社会集団であるので、中にはいり一灯をとぼし、町政に宗教心の何がしかを投じたつもりだが、なかなか思うようにならない。

反核反戦平和の運動を進めよう

(三重県桑名市議)

加 藤 隆 通

いま反核・反戦・平和の運動が大きくもり上っています。ヨーロッパをはじめ、アメリカでもかつてない大衆的な運動となつています。日本でも去る三月二十一日、広島で二十万人ちかい人々が集ま

り、平和のための広島行動に参加しました。「ヒロシマ・ナガサキの心を世界に」訴えました。これに先きだつ三月六日、御門主は安芸門徒大会を機に、平和公園で、「平和をねがう言葉」を述べ

られました。私たちは今こそ反戦平和の運動に全力投球すべきだと思います。

先の大戦中私たちは申訳ない、あやまちを冒しました。御門主のお言葉どおり、私たちは深い反省の上に立つて、平和のためにがんばりたいものです。

ことに私たち政治に多少ともかかわっているものとしては、一層きびしい反省に立つて真の平和確立のため共に努力すべきです。来る竜谷顕真会の総会が、全員でこのことを確認されるよう念願するものです。

社会各層への視野を広げ

(元・山口県柳井市議)

神 代 海 印

私は昭和五十三年までの議会生活(五期)で現在は議会活動をし

ておりませんので当時を回想しながらの感想といふことになりませう。

結論的には私自身臭い舞台と云われる政治に関与したことが大きなプラスでした。と申しますのは地方政治と云うものが直接住民の生活に密着しているだけに、まわりの人達との人間関係が、一層拡がり且つ強化されたこと。そして社会状況の総ての面にわたる推移変化について敏感に反応しなければならぬ立場におかれたと云う様なことから、従来、お寺にあって僧侶として、ものを見たり聞いたり考えたりしていたことから、社会の各層にわたつての隅々にまで視野を拡げることが出来たと云うことです。それと平行して一方では、教団の布教活動を中心とした戦後の都市化社会への開拓が遅々として進まぬテンポのおそいことに、もどかしさを感じました。教団の老化衰弱を阻止する活性化対策の急務であることを痛感しました。

寺院の運営等にプラス

(長崎県口之津町議)

石 川 繁 真

過去九期連続当選、門信徒の協力でトップ当選回数の実績をあげた。

しかし、門信徒の内から、每期三、四名の立候補者があるため、選挙時には、数々の問題点を残している。町行政上の面では門信徒からの請願、陳情等で困る場合もないではないが、要望にこたへることによって実績を上げること寺の運営並に経営面にプラスすることが多い。



青少年犯罪激減 で表彰受ける

(元・岡山県芳井町議)

滝本 顕学

町議三期中に各常任委員長を勤めました。特に文教関係に就いて非行青少年防止運動を徹底してやった事が何よりの思い出であり、聊かその効果があったものと喜ぶ次第である。学校(小・中・高)、

親達の手をつなぐ会、有線放送を通じて町内全戸へ呼びかけ町民一人一人の自覚に俟つことを強調。自治会を通じ推進委員を依頼、各

地区町議が責任を持つて委員会と連絡情報、収集、非行青少年絶滅を期して努力、その画策等を小生を中心として四名の町議と共に日夜奮闘を継続し、お蔭で年々青少年犯罪も激減し県より表彰を受け今日に至っている。

更に郡仏教会をも動員して非行

政治より地区 根性丸出して

(滋賀県五個荘町議)

西 文雄

五個荘町は近江商人の発祥の地として有名である。人口一万弱、寺の数は三十九カ寺でうち浄土真宗十九カ寺、本派は五カ寺であります。

ほとんどが兼業寺院で、百戸以上の檀家のある寺は三カ寺程である。「御縁さんはお寺さんや!!」静かにして反対せんと賛成していったらよいのや」

これが我が寺のお世話方(年がくると全員)さんの私に対する願いである。これは、地区で推薦されるとまず当選するからである。政治より地区根性丸出してである。保守政治も右傾化するなかで、スパイ防止法、靖国神社法等、国会一国会議員の派があり、心ならずも行動をする今日この頃である。

住民と一体と なった議員に

(熊本中央町議)

長 嶺 興 也

人口六千人の過疎の町で大いなる希望に燃えて参画をなした議会

不良防止運動を展開。又優良家庭

の表彰、不良少年を更生させた親達の表彰規定も作り漸次軌道に乗りにつつある。まづこの様な運動は僧侶として又議員として率先すべきであることを痛感している。議席を持つことによつて各ポストと連絡、協議等が易く又実際に処置出来得ることを確信している。

次代を背負う青少年を善導立派な人間作りは急務中の急務である。

社会の為に尽す」ことこそ、目下の急務であると考ええる。

地方議会議員 在任中の所感

(元・滋賀県甲良町議)

藤 辺 行 静

一、政党支持が表示できないこと門信徒の中に保革両党員が居る

ので、住職として届出し政争を避るより処置なし

一、社会福祉政策所見
従来の社会福祉政策には、低所得階層を優先し、対象を限定するような発想で残っている。身体障害者対策と共に、精神障害者対策も範囲内に対象として考えてほしい。

一、僧侶として議員選出も可なるも広く社会参加を切望します。

社会のために尽 すことが急務

(兵庫県南光町議)

経 谷 隆 道

「他力」とは如来の本願力なりと言ふことを一般社会には通用させることはむづかしい。というのも自力で頑張ることこそ現代若者の考え方であるように思われるからである。然し乍ら「家の宗教」である浄土真宗はわれわれの住む農村地帯にあつては尚安泰であるこれを利用して四期十六年議席を得ている自己の生きざまがあまりしく感じられる今こそ「み仏の恵みを喜び互にうやまい助けあい、



◇ はがきの …… ◇

◇ 意見欄から ◇

◇ 仏意に基いた議員活動を顕真會員総てが実践すべきである。

(久富武士)

◇ 市と町村、執行部と議員、それぞれの立場で関心の度合にも相違があるので、総会では分科会的なことも考えて共通話題を見出すことはいかがでしょうか。

(川越証真)

◇ いつも初心を忘れないことを念頭に顕真会創立の本旨に則り、いよいよ活発に運営されることを期待しております。なお当選された人は全員入会されるよう綿密に調査と勧誘をされるよう願っています。(殿真英)

◇ 永年勤続者を本会より表彰し、今後も益々本会のために尽力するよう希望します。(柴田薫心)

◇ 顕真會員の増員に向かって努力

せねばならぬと思つ。(志賀諦)

◇ 総会では各総務出席のもとに座談会のような会もお考え下さい。

(菅森正真)

◇ 鹿児島県大隅開発の拠点地として六百億の流通港湾建設、指後地の農業開発に努力しています。

(黒木隆之)

◇ 反動化、軍国主義化が強まり、日本国憲法の改悪が日程にのぼろうとしています。いまこそ平和のために、全宗門人が立ち上るべきです。特に宗内に席をおき政治にたずさわる私どもが、かつての苦い体験を再びくりかえさぬため、がんばるべきだと心から思う次第です。(加藤隆通)

◇ 人の動きがよくわかり機の深信を深めました。寺の活動を如何にすべきか、常に考えさせられます。

(前原弾郎)

◇ 年一回のしかも短時間の会議であるから會員の親睦をはかるとともに実りある会議となるよう議題を設定して討議の焦点化を

はかつてほしい。会報発刊ともなれば報道にも便利となることだし教団の体質強化に役立つようになつてほしい。(神代海印)

◇ 龍谷顕真会の輪をどんどんひろげてゆくよう努力したいと存じます

(多田勝)

◇ 物から心へという転換期にあたり、いかなるかたちで行政面に、例えばお念仏をうち出すことができるのか、長年の先輩諸氏にその対応をききたい一心です。

議決機関のありかたによつて提案し、また行政を執行していく立場にありますので、真剣な御意見をきき、また一方宗門と国の政治等の有効な関連をつくつて頂きたい所存であります。この機関にでもあるような顔見世も必要でしょうか、ひろく宗門の立場でと愚考します。他力本願の問題にせよ私共が、大きくとりあげることだとも思いませんし、何分よろしく願ひします。

(野上義浄)